

2023年度海外認定研修 報告書
台湾図書館研修(台北)4日間

国際基督教大学図書館 テクニカル・サービスグループ
(2023年12月時点)
砂田 ゆとり

2023年12月6日-9日にかけて、標記海外認定研修に参加してまいりました。以下の通り、報告を行います。

1. 研修概要と参加の動機

● 研修概要

研修名称 : 台湾図書館研修 2023
企画協力 : 図書館総合展運営委員会、丸善雄松堂株式会社
期間 : 2023年12月6日(水)-9日(土)

● 参加の動機

私は、国際基督教大学図書館において図書目録および図書整理の業務を行ってきました。本学では、数万の中国語図書、および推計2万冊前後の漢籍コレクションを所蔵しております。特に漢籍コレクションは、創立当初の1950年代に受入を行ってから50年以上経過しており、図書整理において重要な課題の一つとなりつつありました。そのため私は今年度、東京大学の漢籍整理長期研修に参加し、漢古典籍資料に関する整理技術の初歩を学びました。そういった業務のなかで、本場の漢籍整理や修復について視察を行いたいという個人的関心が高まりました。台湾は、中国の歴史の中でも極めて資料価値の高い古典籍が多く保存されているため、今回の研修はそれを行える機会であると判断し参加を決意しました。またIT先進国である台湾でのITを利用した図書館の施設、空間づくり、IT教育、デジタルアーカイビングにも興味があり、参加の意思を固めました。

2. 訪問機関報告

(ア) 故宮博物院

台湾を代表する博物館である故宮博物院には、過去に個人的には何度か訪れたことがありましたが、現地で生まれ育ったツアーガイドの蘇様の解説により、台湾の方たちがどれだけ自らの歴史を誇り、深い歴史観を持っているかを知りました。また、今回は線装本のコレクションを中心に書画など、文字資料コーナーを

ゆっくり見学できました。個人的には、「殿試策」第一甲第一名(科挙に一番の成績で合格した人の答案)の木刊本の現物を閲覧すること、および隣接する図書館に訪問したいと考えていたのですが、どちらも今回は未達であったため、今後訪問した際の課題とします。



▲(左) 太乙集成 無著撰人 明鈔彩繪本

占卜の一種である式占のうち、太乙式について書かれたもの。鈔彩とは、手書き彩色のこと。当時は顔料が高価であり手間もかかるため、手作業で彩色された絵本はとても珍しい。おそらく金鑲玉装(後述)とみられる。

▲(右) 欽定大清會典事例卷 1214 内務府營造司 清 崑岡等奉敕撰清光緒 25 年總理衙門石印本

大清會典は、清朝の政治に関する記録。この巻は、清末期の義和団事件により損壊した紫禁城の修復に関する記録とみられる。石印とは、石灰石を用いた平板印刷のこと。

(イ) 台北市立図書館北投分館

台北市立図書館北投分館は、台北市立図書館のなかでも建築の美しさに特化した公共図書館です。台北随一の温泉街である北投地区の中心に位置し、グリーン建築という環境配慮型な図書館としても評価を得ています。温泉街の湯煙の中にそびえたつこの図書館は、独特の雰囲気醸し出しており、神秘的なたたずまいと言えました。



▲北東分館 外観

(ウ) 国立台湾図書館

国立台湾図書館は、日本統治時代の台湾総督府図書館を前身とした台湾最大の公共図書館です。公共サービスに特化しており、市民講座の充実が見て取れました。ここでは、図書の修復を専門的に行う台湾図書館の見学を行いました。冷凍除虫と脱酸の大規模な設備があり、職員は非常に高い専門性を有していました。線装・洋装問わず貴重書の補修をおこなっており、裏打ち補修の見学や、木版印刷の体験はとても貴重でした。ほかにも、日本統治時代の製本機や1970年代の活字箔押し機が導入されていて、洋装図書の製本・補修に活用されていました。



▲(左)台湾図書館院内観

▲(右)修復に使う楮(こうぞ)紙。土佐紙など、日本の和紙を使用することも多いそう



▲(左)修復されたクルアーン(コーラン)。聞くところによると500年ほど前のもの

▲(中)箔押しに使用される活字 (右)箔押しされた図書

(エ) 国家発展委員会档案管理局

国家発展委員会は、最高行政機関である台湾行政院の1官庁で、档案管理局はおもに公文書など行政関連の資料を収集・閲覧する施設です。ここでは、歴史的資料のスキャニングや、修復・収録作業など、デジタルアーカイブの最前線を見ることができました。閲覧は完全にシステム化されており、Webから閲覧したい資料を申請することができます。この日も、研究目的の資料利用者が閲覧に訪れていました。



▲(左)フィルム修復

▲(右)楮紙を澱粉のりで貼り付け、壁に貼って乾かす裏打ち補修

(オ) 中原大学図書館

台北郊外の中壠地区にある中原大学は、台湾有数のキリスト教私立大学です。クリスマスシーズンということもあり、学生によるクリスマスアートが構内にたくさん見られ、活気を感じました。

図書館に設けられたクリエイティブスペースは、設備としてとても特徴的だと感じました。撮影・録音スタジオなど様々な設備があり、学生たちの創作意欲を刺激する構造になっていたといえます。また、図書館とは別にラーニングコモンズがあり、自習だけでなく憩いの場として自由に活用されていました。キリスト教の蔵書コレクションもあり、貴重な資料を数多く閲覧できました。



▲馬可講義 花之安(ファーバー, エルンスト Faber, Ernst)撰 光緒元年大英國印書會捐刻(1874)大德國禮賢會藏板 清刊本

ファーバーは中国のドイツ人宣教師で、香港や上海で伝道をおこなった。博物学や教育に関心が深く多くの啓蒙的著作を残している。「馬可講義」は日本でも印刷され、訓点本が作成された。序は北京の拙安山人によるもので、香港礼賢會・劉瑞沼牧師の旧蔵書。

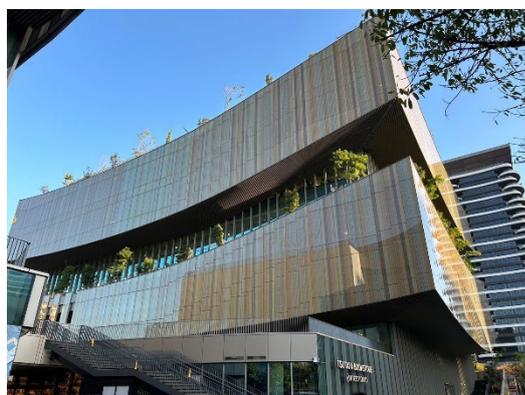
(カ) 桃園私立図書館新総館

2022年に開館したばかりの台湾の中でも最新の図書館です。1階に薦

屋書店がテナントとして入っており、指定管理者制度による図書館かと思いましたが、実際のサービスや設備を見ると、日本の指定管理図書館制度とは異なっていると感じました。

バックヤードは徹底して自動化されており、返却された図書はベルトコンベアで仕分けされます。また、電子図書館やインターネット予約、コンビニでの貸出サービスも充実していました。

閲覧は、子どもやヤングアダルト向けの工夫があるばかりではなく、シニア向けのボードゲームスペースや、郷土資料コーナーの展示にも力が入っていて、子どもから大人まで生涯利用できる空間づくりとなっていました。



▲図書館外観。各フロアは 60 坪ほど



▲返却図書を仕分けるコンベア

(キ) 蔣経国総統図書館

蒋介石の長男である蔣経国総統を記念し、蔣経国総統期の政策決定についての資料を重点的に集める、2022 年に開館した台湾初の総統図書館です。総統の旧居を敷地内に含み、台湾の歴史について展示を通して深く知ることができました。



▲図書館内観

(ク) 国立政治大学達賢図書館

2019年に完成した国立政治大学5つ目にして最新かつ最大の分館です。指南キャンパスの中央に位置し、地下鉄駅や学生寮とのアクセスが良好です。中央図書館と比較すると中国語図書の割合が高く、閲覧室は学内の池に面していて、落ち着いた学習環境が整備されていました。

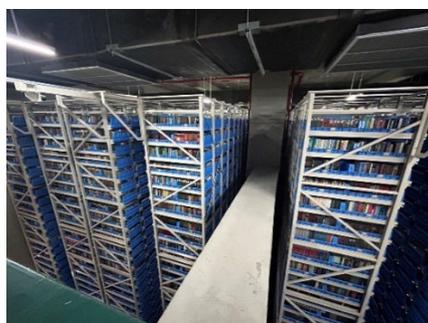
(ケ) 台湾大学図書館

日本統治時代に作られた台北帝国大学を母体とした大学の図書館です。図書館本館の貴重書コーナーでは、漢古典籍を閲覧しました。台湾大学の漢古典籍は、古くは1920年代から受け入れを開始しており、3万点程度を貴重書として所蔵しています。コレクションのうちには、極めて珍しい宋元版の古籍や、日本で印刷された和刻本漢籍が含まれていました。

また、自動化書庫(ASRS)のサービスセンター、および内部通路を見学しました。2018年に導入された台湾唯一の自動化書庫は、日本でも主流の日本ファイリングによるシステム、AutoLibが駆動しています。台大の自動化書庫の収納冊数は120万冊と本学の約2.4倍の規模で、多目的講義棟の地下に作られ、階層が深く、スペースが有効に使われていると感じられました。



▲図書館外観



▲ASRS(自動化書庫)内部

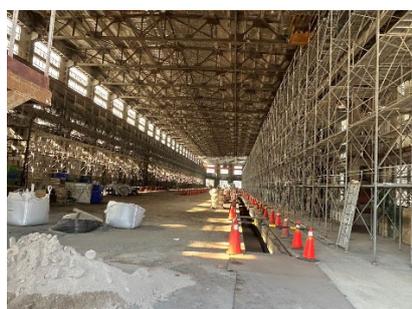


▲呉呉山三婦合評牡丹亭還魂記 清 1694年夢園刊本

呉呉山の3人の妻が、中国戯曲「牡丹亭還魂記」について評論した評点本。線装本を裏から補強した「金鑲玉装」は、貴重な図書の保護のために施される。

(コ) 国立鉄道博物館準備室

こちらは、2026年に正式開館する予定の台湾鐵路管理局(台鉄)の博物館で、車両修理・整備のための工場であった台北機廠を修復し、開館作業が進められています。構内には本物の車両が走っており、鉄道の部品やボイラー、スチームハンマー、看板、切符、制服、食堂車の食器一つ一つに至るまで当時の現物を用いています。それに加え、新たに作られたジオラマや、インスタレーションなどの空間芸術を用いて、台鉄歴史を最大限に引き出す展示となっていました。開館後は実際に構内の鉄道に乗車したり、食堂車で食事ができたりなど、この地でしかできない体験ができる施設となる予定です。



▲工場内観。車両はDR2300型ディーゼルカー、B.V.15078, 15092タイ国鉄緩急車



▲食堂車のガラスコップ



▲職員浴場。2000年に台北市文化財指定

(サ) 誠品生活信義店

台北中心部にある誠品書店の旗艦店で、書店をベースにした百貨店のようなショッピングモールです。中国語図書は台湾で発行されたものでなく、中国本土のものも販売されていました。近年 EC サイトでも取り扱われる台湾ブランドの雑貨・文具などを幅広くそろえ、それらと書籍コーナーをうまく組み合わせた売り場づくりが魅力的でした。残念ながら、こちらの書店は12月

未で閉店するとのことで、台北の一等地にあるこの施設が、今後どのように利用されていくのかにも注目です。



▲書店外観

3. まとめ

研修全体を通して、訪問したどの施設でも、とても手厚い歓迎を受けました。プレゼンテーションや食事、お土産、コンサートを開催して下さった施設もありました。私はもともと懐かしさと温かさを感じる台湾が好きで、個人的にもよく訪れていたのですが、今回の研修を通して台湾の図書館業界の皆様ともつながりができ、いっそう親近感を感じます。今後の仕事をする上で、貴重な経験を数多くさせていただきました。今回の研修でお世話になりました、公共図書館・大学図書館・資料館・その他施設の皆様に感謝申し上げます。また、今回の研修の開催に多大なるご尽力をいただきました、図書館総合展運営委員会および丸善雄松堂の皆様、ご同行いただきました日本全国の図書館業界の皆様にも、心からお礼申し上げます。



▲参加者集合写真

以上